[PR]毎日新聞を新規購読すると、もれなくＪＡＬマイレージがもらえます！

平和の傘：子供の笑顔をプリント　広島・長崎・沖縄で開催

2010年7月28日 11時49分　更新：7月28日 12時27分

イベントの準備のため、原爆ドーム前に並べられた笑顔の傘＝水谷事務所提供

被爆から６５年の夏を迎える広島、長崎と太平洋戦争で激しい地上戦のあった沖縄で８月、世界各地の子供たちの笑顔をプリントした傘１００本を開き平和を祈る「メリー・アンブレラ・プロジェクト」が開催される。戦争で聴力を奪われた元兵士の父親を持つアートディレクターの水谷孝次さん（５９）＝東京都港区＝が企画。水谷さんは「子供が笑顔でいられるためにも核兵器はいらない。平和は大切というメッセージを発信したい」と話している。

水谷さんは８０年代から大手企業の広告ポスターを手がけ、世界的な賞も受賞してきた。９９年から「デザインで人を幸せにしよう」と２６の国と地域で３万人以上の笑顔を撮影し、０５年愛知万博や０８年北京五輪開会式などで発表。今年５月は上海万博会場と東京・渋谷で同時に笑顔の傘を開くイベントを実施した。

水谷さんの父は太平洋戦争で出征し南方戦線で負傷。聴力を失ったのはこの時だった。「父は戦争についてあまり語りたがらなかった。いつも怒りっぽく、それゆえに父の不満や戦争の悲惨さを子供心に感じた」と話す。

イベントでは核兵器を含めた戦争の悲惨を訴え、８月１日に広島の原爆ドーム前、７日に長崎の平和祈念像前、１４日に沖縄の平和祈念堂前で行い、地元市民や学生らが参加。会場には子供の顔を大きくプリントした傘が並べられる。子供の写真は、水谷さんが中国・四川大地震被災地の綿陽市、インドネシア・スマトラ沖大地震のバンダアチェ市、阪神大震災後の神戸市など被災地で撮影したものなどが中心となる。

水谷さんは１８日、イベントの準備に訪れた広島市で広島県被団協副理事長の池田精子さんと面会。「（被爆後の）私には笑顔の写真が一枚もない」と池田さんは話し、イベントに理解を示してくれたという。水谷さんは「戦争の火種を少しでも和らげる希望の光を発信し、世界中の平和と核廃絶の動きにつながってほしい」と願っている。【小泉大士】